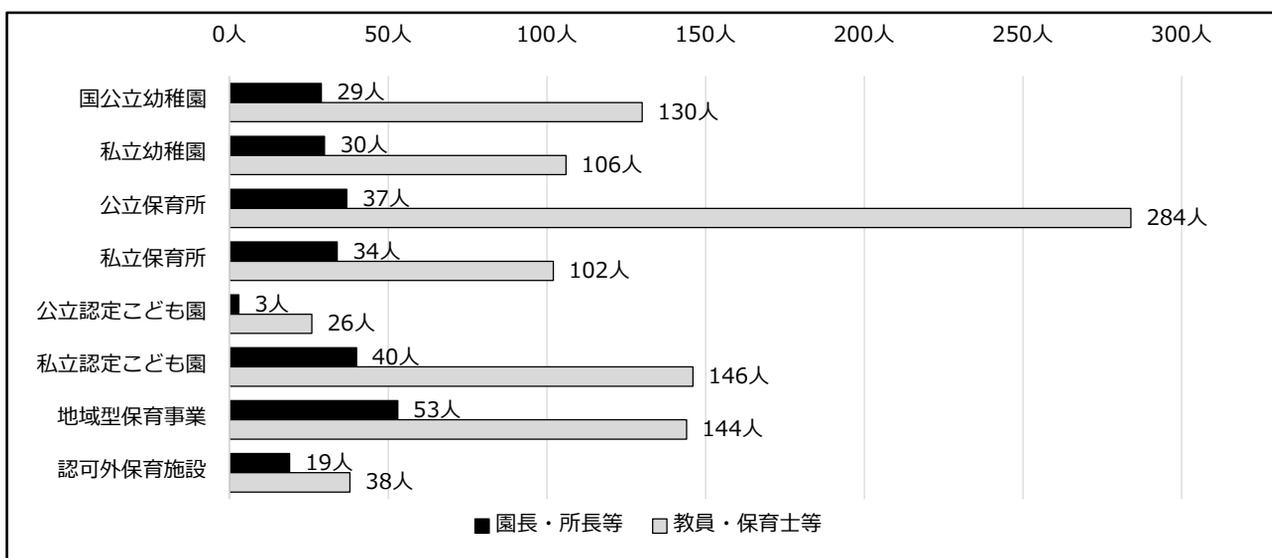


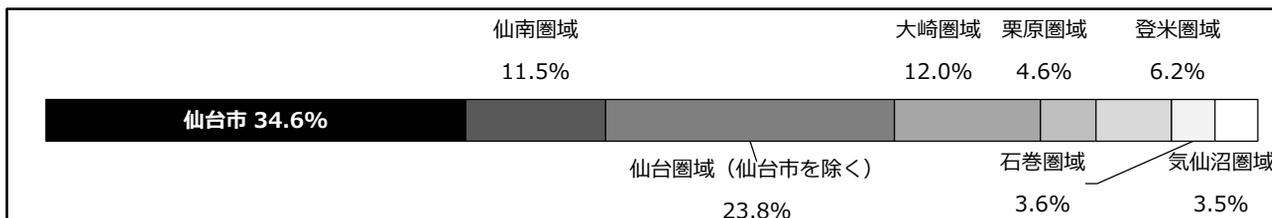
幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長、教員・保育士等）

回答数

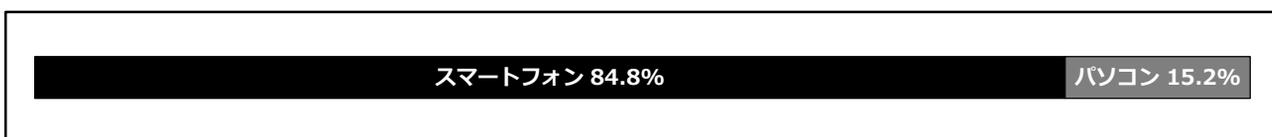
対象施設		回答数（人）				
施設区分	施設数	園長・所長等	回答率	教員・保育士等	合計	
幼稚園	国公立	57	29	50.9%	130	159
	私立	118	30	25.4%	106	136
	小計	175	59	33.7%	236	295
保育所	公立	135	37	27.4%	284	321
	私立	219	34	15.5%	102	136
	小計	354	71	20.1%	386	457
認定こども園	公立	11	3	27.3%	26	29
	私立	192	40	20.8%	146	186
	小計	203	43	21.2%	172	215
地域型保育事業	281	53	18.9%	144	197	
認可外保育施設	253	19	7.5%	38	57	
合計	1266	245	19.4%	976	1,221	



施設所在地

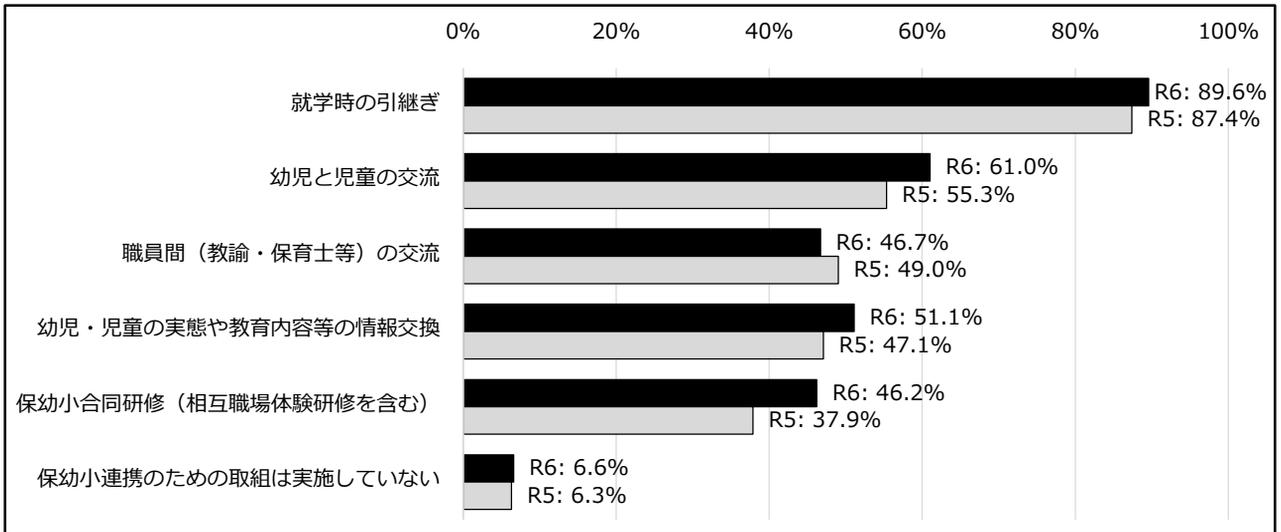


回答方法



1 保・幼・小連携について（園長・所長のみ回答）

1-1 保幼小連携・接続のための取組としてどのようなことを実施していますか。 （該当するもの全て選択）



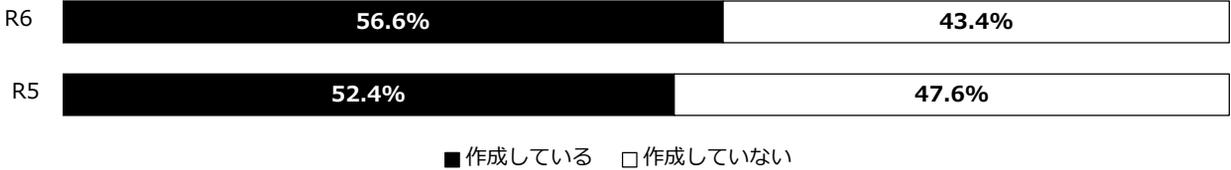
- 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置
→ 全回答施設「245施設」中「63施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「182施設」の状況を集計
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

施設類型 連携内容	国公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 保育所	私立 保育所	公立 認定 こども園	私立 認定 こども園	地域型 保育事業	認可外 保育施設
カリキュラム作成	93.1%	43.3%	60.6%	38.7%	100.0%	65.0%	11.1%	12.5%
就学時の引継ぎ	93.1%	93.3%	97.0%	100.0%	100.0%	90.0%	33.3%	37.5%
幼児と児童の交流	100.0%	70.0%	54.5%	51.6%	100.0%	57.5%	11.1%	0.0%
職員間の交流	75.9%	36.7%	57.6%	29.0%	66.7%	40.0%	55.6%	12.5%
情報交換	82.8%	33.3%	72.7%	35.5%	100.0%	47.5%	22.2%	0.0%
保幼小合同研修	69.0%	30.0%	51.5%	48.4%	66.7%	47.5%	22.2%	0.0%
取組未実施	0.0%	0.0%	3.0%	3.2%	0.0%	2.5%	55.6%	50.0%

【概要・考察等】

- 保幼小連携・接続のための取組を「職員間の交流」と回答した割合は2.3ポイント減少したものの「幼児と児童の交流」は、昨年度より5.7ポイント増加したため、子ども同士の交流の機会は増加していることがうかがえる。
- 「幼児と児童の交流」と回答した割合が増加したことから、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携接続を図ろうとする施設の意識が少しずつ高まってきていると考えられる。
- 「就学時の引継ぎ」と回答した割合は2.2ポイント増加し、連携や接続の必要性・重要性の意識が高まってきている。
- 「保幼小合同研修」と回答した割合が昨年度より8.3ポイント増加したことから、保幼小連携・接続の必要性・重要性について、幼児教育と小学校教育の連携接続を図ろうとする施設が増えている。

1-2-1 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを作成していますか。

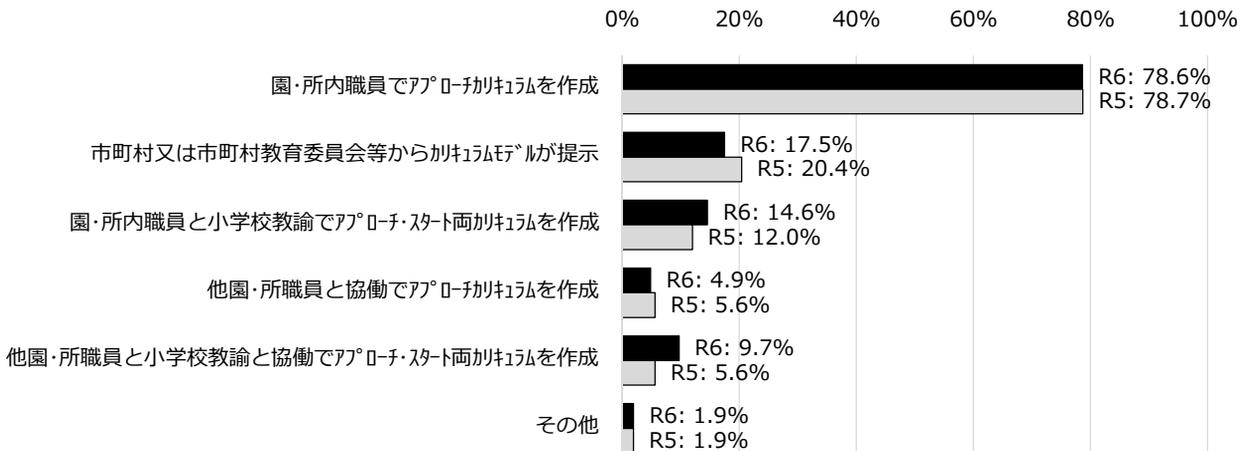


- 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置
→ 全回答施設「245施設」中「63施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「206施設」の状況を集計
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

【概要・考察等】

- 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを「作成している」と回答した割合は、56.6%で昨年度より4.2ポイント増加した。
- 市町村幼児教育（保幼小連携）担当者研修会を通じて、接続期カリキュラム作成の必要性・重要性を啓発し、引き続き、各市町村がそれぞれ接続期カリキュラム作成等の保幼小の連携・接続に取り組んでいく体制づくりを更に進めていく。

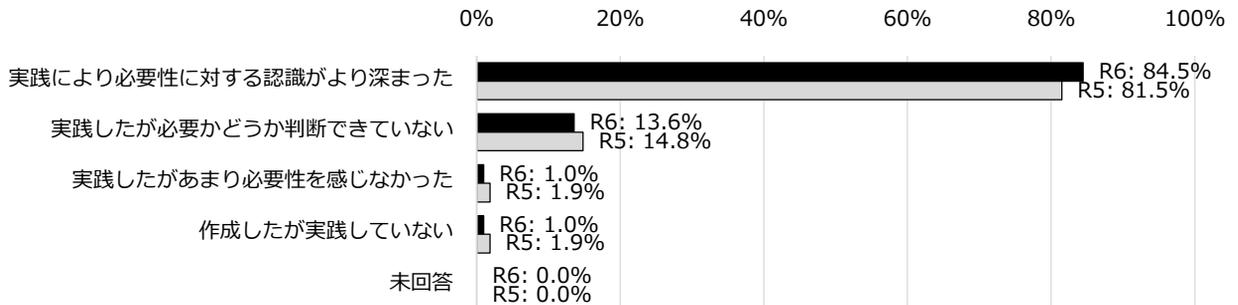
1-2-2 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 「園・所内職員でアプローチカリキュラムを作成」と回答した割合は、昨年度とほぼ同じ割合で、各幼児教育施設において、接続期カリキュラム作成に対する理解がある一方、「市町村又は市町村教育委員会等からカリキュラムモデルが提示」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント減少しており、市町村又は教育委員会の保幼小の連携・接続の取組について、より一層の理解促進が必要である。
- 「幼児教育施設と小学校の教職員でアプローチ・スタート両カリキュラムを作成している」と回答している割合は2.6ポイント増加しているものの、依然少ない状況であることから、引き続き保幼小の相互理解のもと、共同で作成していくことの重要性を啓発していく必要がある。

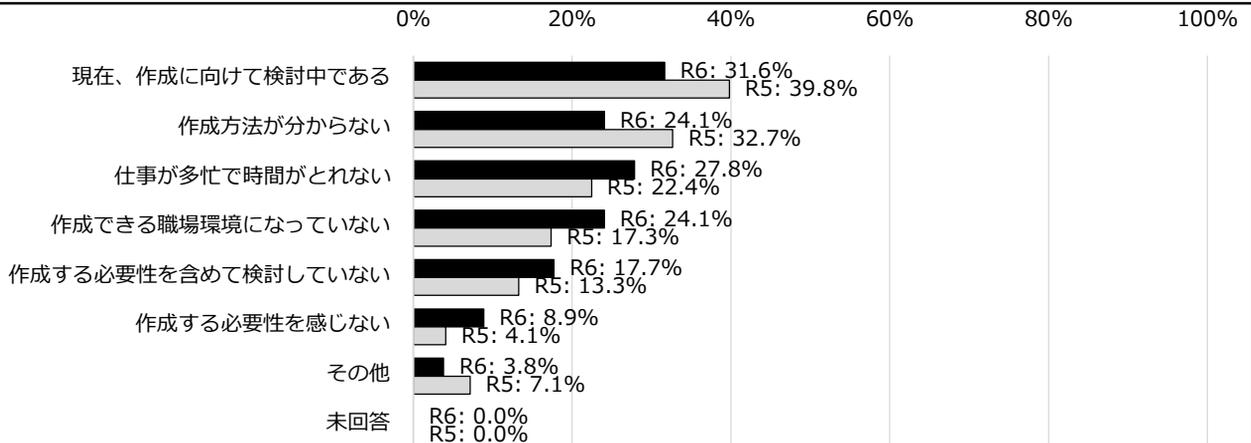
1-2-3 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通した園・所内全体での成果をお答えください。



【概要・考察等】

- 「実践により必要性に対する認識がより深まった」と回答した割合は、昨年度より3ポイント増加した。これは教育の連続性に配慮した環境を用意し、接続に関わる効果を認識できたと考えられる。
- 「実践したが必要かどうか判断できていない」と回答した割合が1.2ポイント減少し、「実践したがあまり必要性を感じなかった」と回答した割合が0.9ポイント減少しており、幼児や児童同士の交流が増加するなど、子供たちの学びの姿を実際に見る場面が増え、保幼小の連携や接続の取組を実感として感じることができていることが考えられる。引き続き、カリキュラムの見直し等の必要性を啓発していく。

**1-2-4 「1-2-1」で「作成していない」を選択した方は、その理由をお答えください。
(該当するもの全て選択)**



○ 設問「1-2-4」において「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置

→ 全回答施設「293施設」中「87施設」がこの選択肢に該当すると回答

○ 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「206施設」の状況を集計

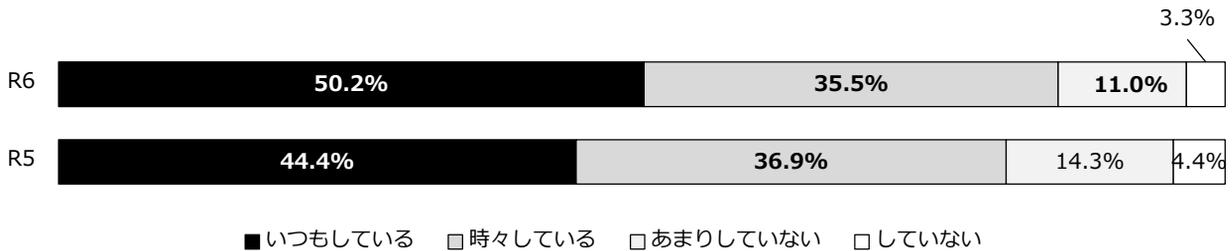
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

【概要・考察等】

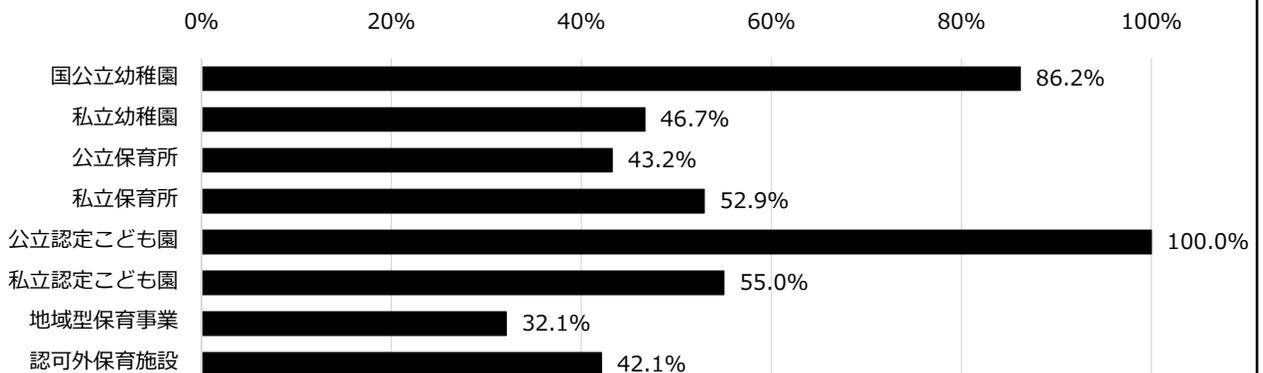
- 「現在、作成に向けて検討中である」と回答した割合は8.2ポイント減少し、約3割が作成に向けて前向きにとらえていることが分かる。
- 「作成方法が分からない」と回答した割合は、8.6ポイント減少しており、接続期カリキュラムの重要性について、理解が広がりつつあると考える。
- 「作成する必要性を含めて検討していない」は4.4ポイント、「作成する必要性を感じない」は4.8ポイント増加しており、接続期カリキュラム作成の重要性について、更なる啓発が必要である。「現在、作成に向けて検討中である」「作成方法が分からない」の回答があることから、研修会等で具体的な作成の内容について学ぶことができるようにしていくことが必要である。

2 基本的な生活習慣について（園長・所長のみ回答）

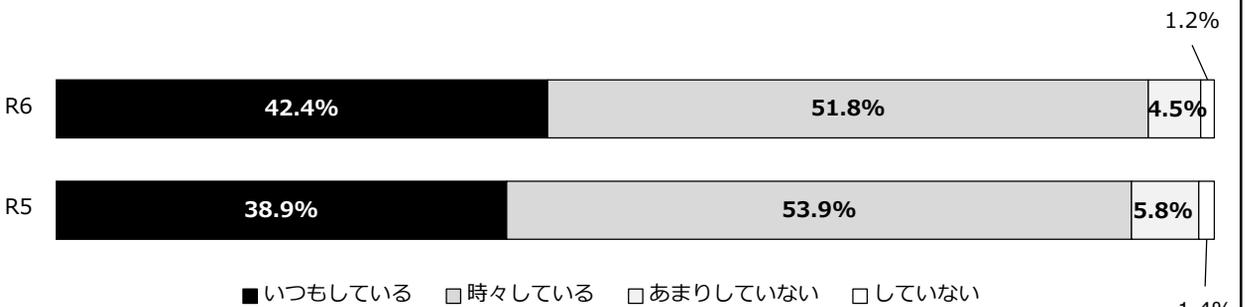
2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



（今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳）



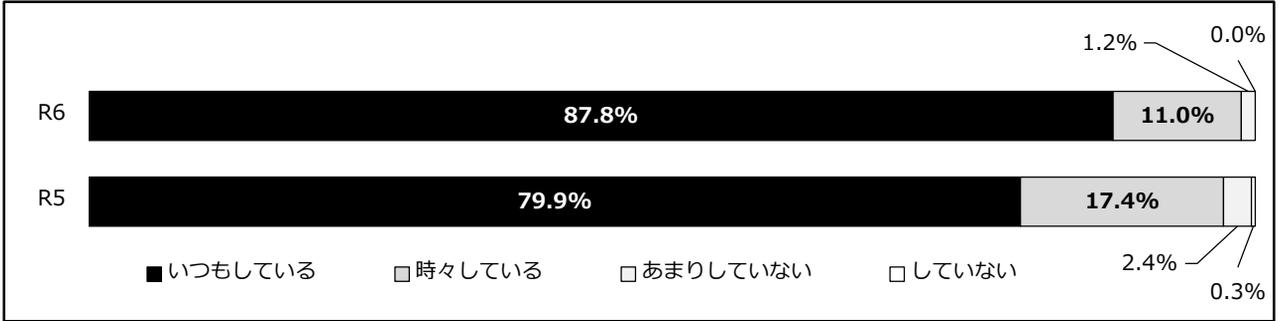
2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



【概要・考察等】

- 「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は5.8ポイント増加し、「時々している」においては1.4ポイント減少した。
- 家庭への啓発を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、昨年度より1.4ポイント増加している。
- 基本的な生活習慣の確立のための重要性について理解を促進していくため、「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を更に図っていく必要がある。

2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

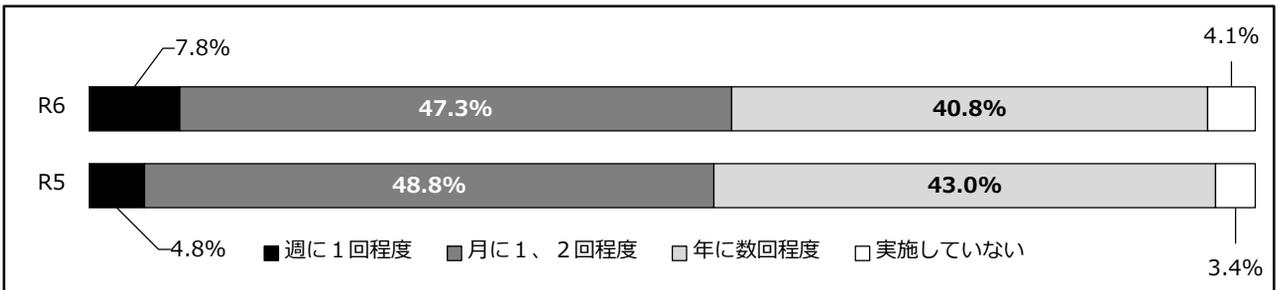


【概要・考察等】

- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より7.9ポイント増加した。
- 「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、概ね昨年度と同様の98.8%であり、体を動かす習慣が着実に広がっていると考えられる。

3 園内研修について（園長・所長のみ回答）

園内研修の頻度についてお答えください。

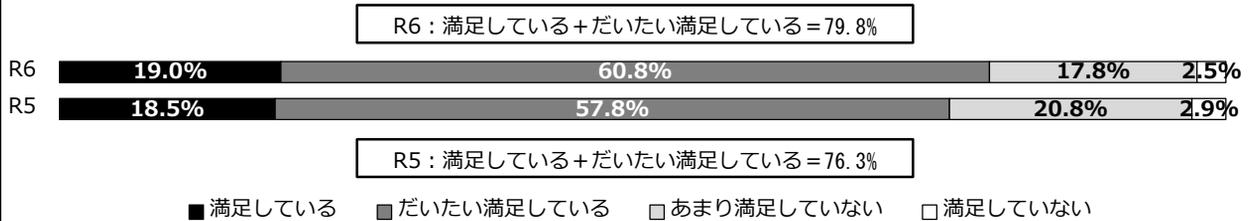


【概要・考察等】

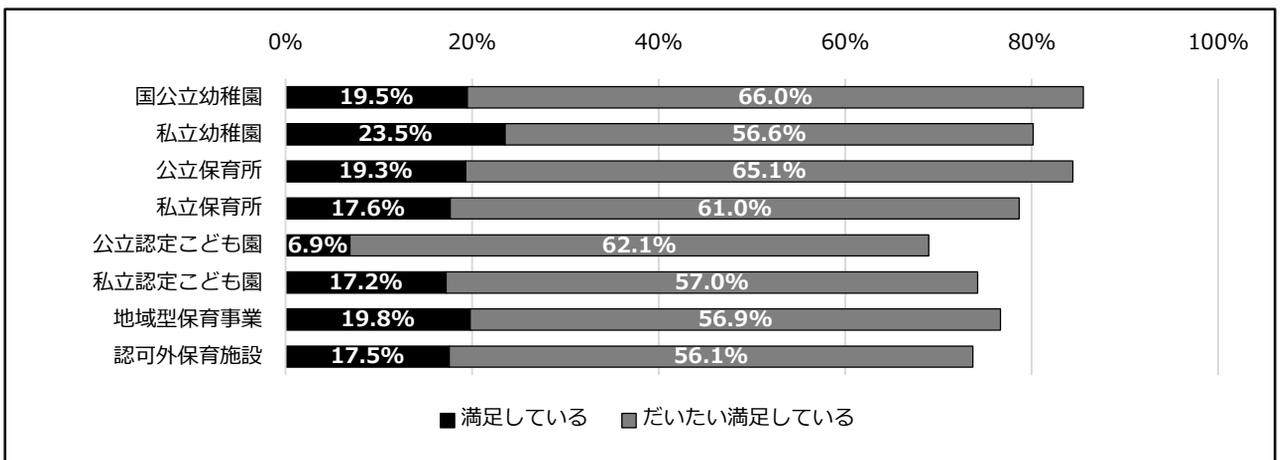
- 園内研修の頻度が「月に1、2回程度」と回答した割合は、1.5ポイント減少したものの、「週に1回程度」と回答した割合は、昨年度より3ポイント増加した。
- 「実施していない」と回答した割合は、昨年度より0.7ポイント微増しており、継続的・定期的な園内研修の取組が少しずつ定着してきていることがうかがえる。
- 引き続き、幼児教育アドバイザーの派遣やICTを活用した研修教材の提供など、継続的・定期的な園内研修の支援を行っていく必要がある。

4 研修について（全員回答）

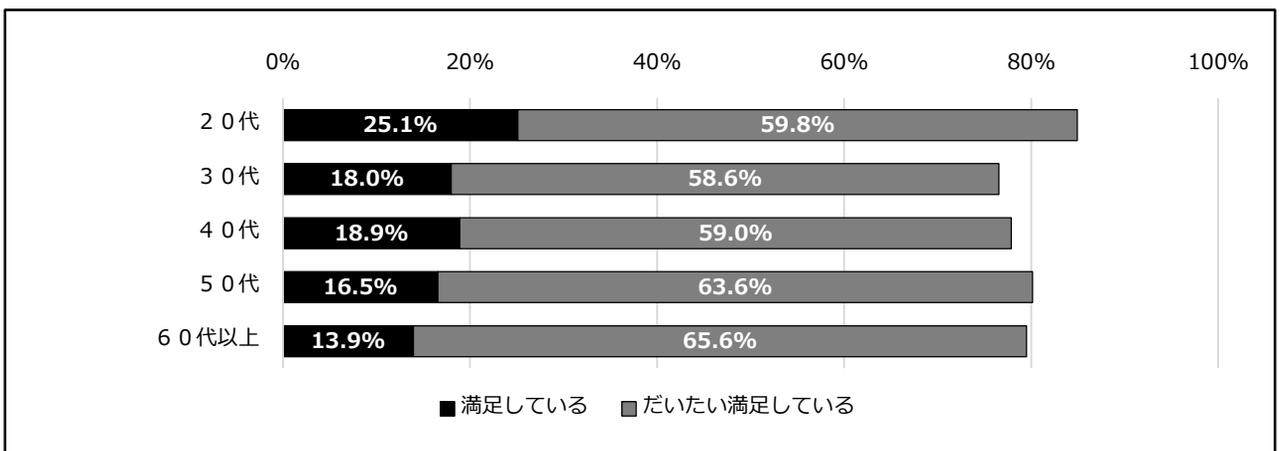
4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



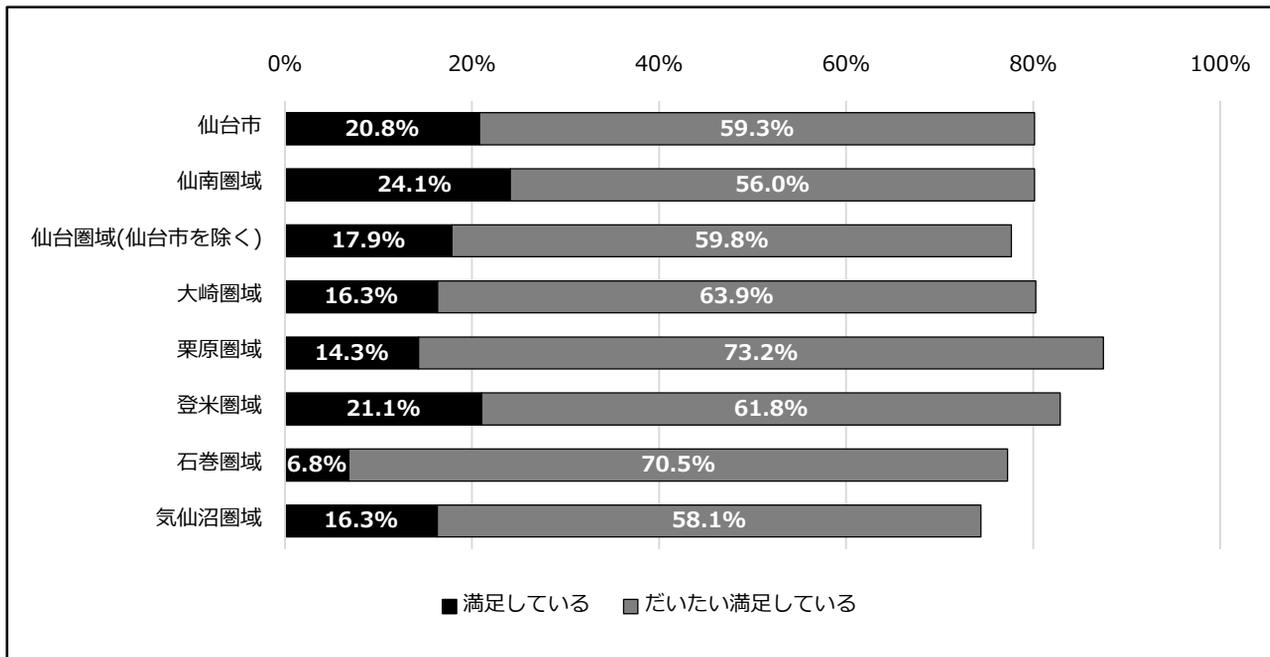
（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳）



（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳）



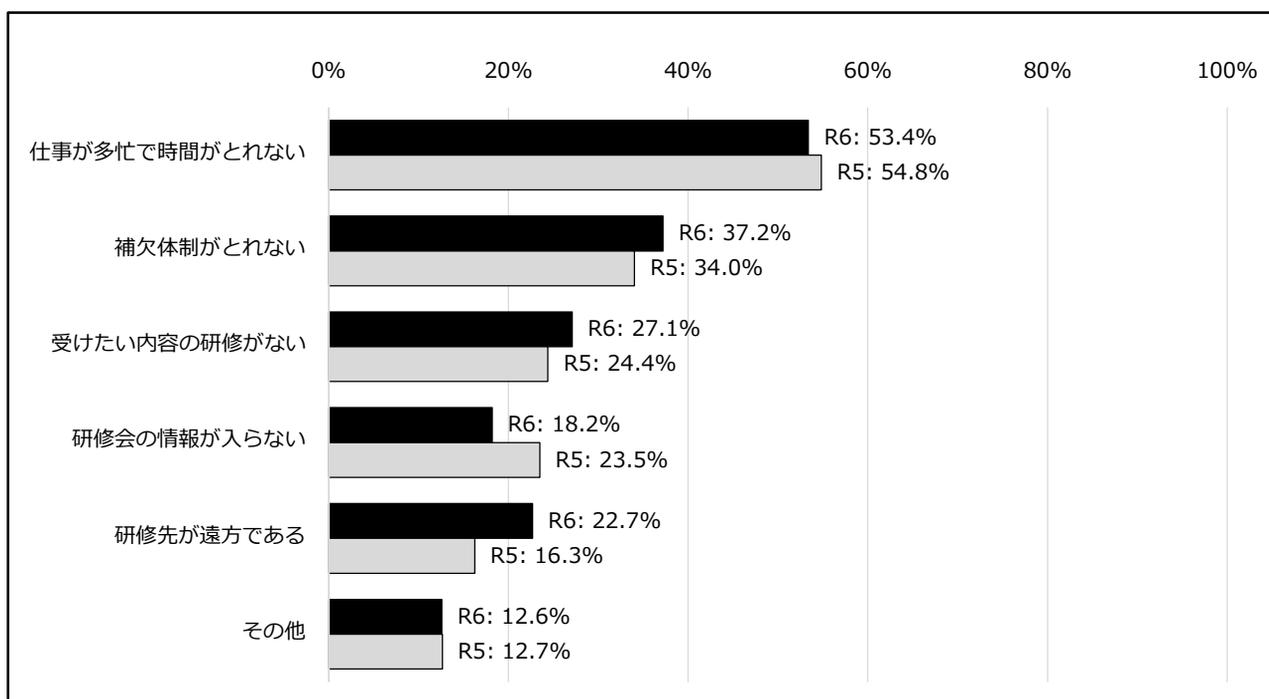
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)



【概要・考察等】

- 現在の研修状況に「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、昨年度より3.5ポイント増加した。
- 年代別では「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、20代が84.9%で一番多く、30代以降の差は小さくなっている。
- 圏域別では「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、栗原圏域が87.5%と最も高かった。

4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



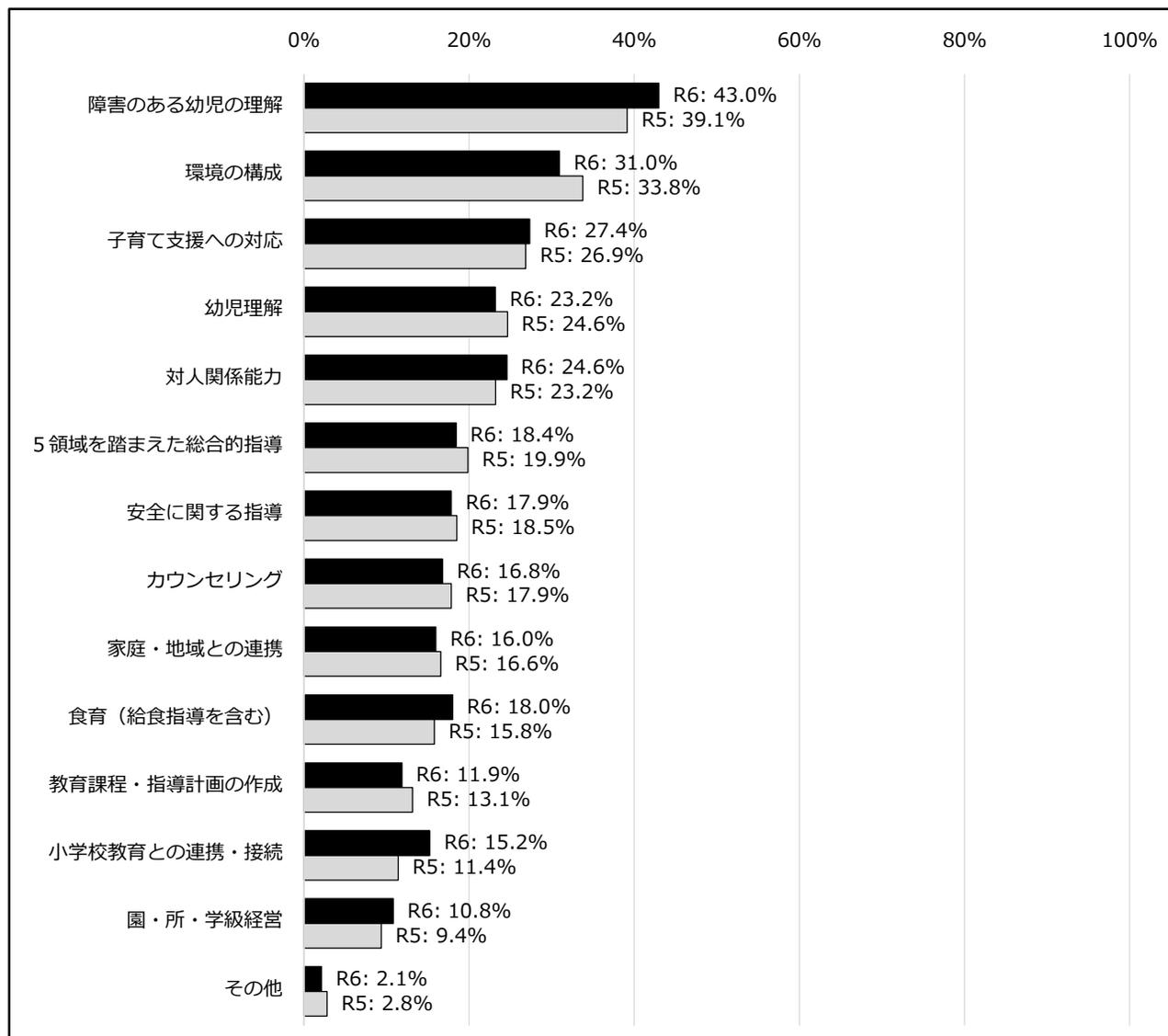
【その他の主な内容】

- 研修の機会が少ない
- 受講できる人数に制限があり、応募が間に合わない（抽選に当たらない）
- 勤務形態的に参加が難しい

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として回答した割合が最も多く、昨年度より1.4ポイント減少した。
- 「研修の情報が入らない」と回答した割合は5.3ポイント減少し、「研修先が遠方である」と回答した割合が6.4ポイント増加したことを受け、短時間でも効率的に研修を行うことが可能になるように、オンライン研修の実施やICTを活用した研修教材の提供など、研修の方法を工夫していく必要がある。
- 自由記述の中で「人員不足」や「パート（非常勤）」などが研修を受けることができない理由として挙げられていることから、幼児教育施設の勤務体制等の改善が必要であると考えられる。

4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】

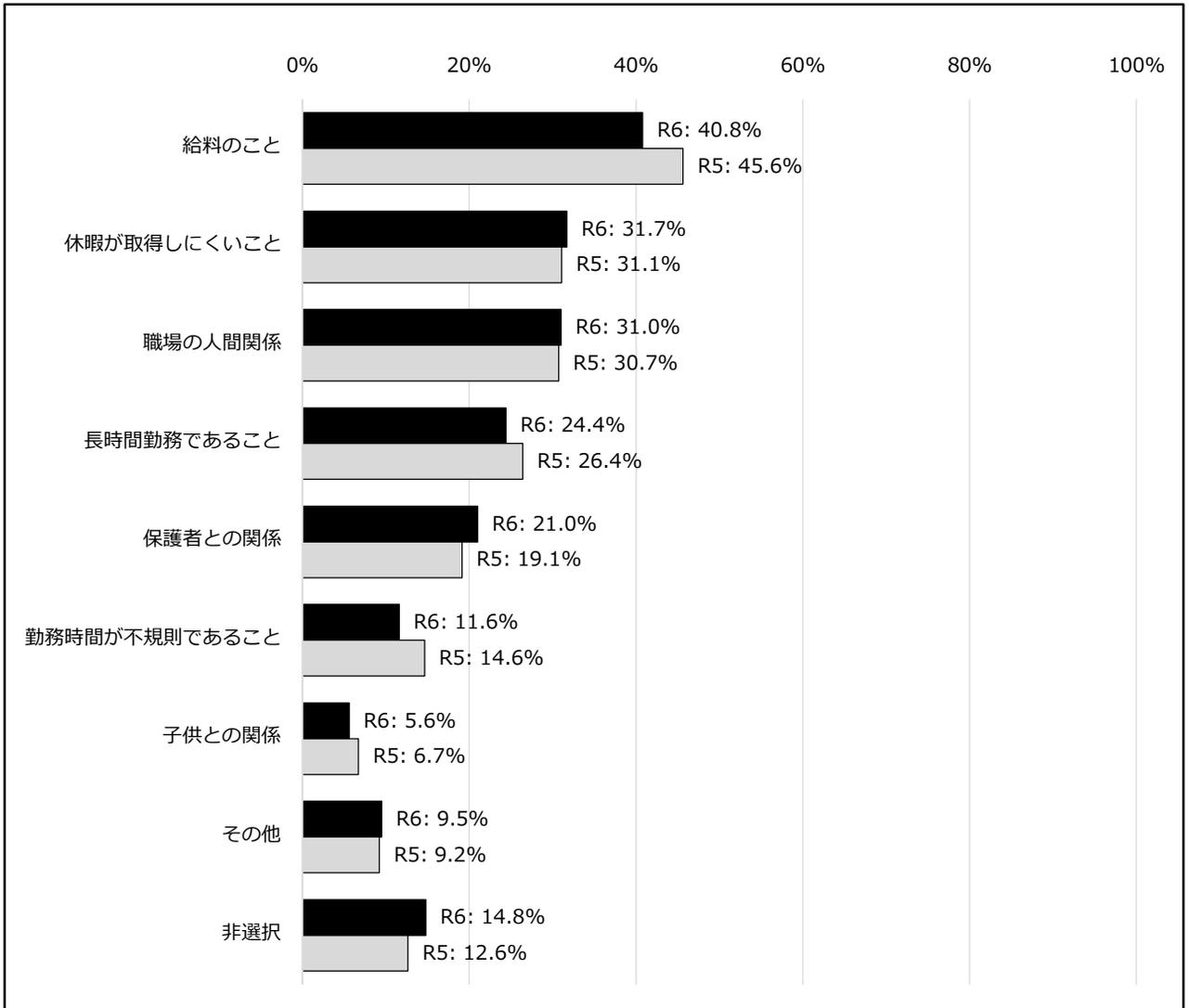
人材育成、救急救命対応、実践で即役立つ遊び、苦情対応、ハラスメント研修

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「障害のある幼児の理解」や「環境の構成」を受講したい内容と回答した割合が最も多かった。
- 受講したい内容の順位は、概ね昨年度と変わらないが、小学校教育との連携接続が昨年度より3.8ポイント増加した。保幼小の円滑な接続の推進について、更に理解の促進を図っていく必要がある。

5 職業上の悩みについて（全員回答）

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

後継者育成、園児の減少、働き方改革による労働環境への弊害、人手不足、家庭と仕事の両立、仕事量の多さ

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「給料のこと」を理由として回答した割合が最も高かった。
- 職業上の悩みの理由の順位は、概ね昨年度と変わらない。

6 「ルルブル」について（全員回答）

子供の基本的な生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



- 「ルルブル」を実践（意識）している
- 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より18.2ポイント増加した。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より11.8ポイント減少しているため、更に「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

7 「学ぶ土台づくり」について（全員回答）

幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



- 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- 「学ぶ土台づくり」は知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より9.3ポイント増加した。
- 「実践（意識）している」「知っているが、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より5.1ポイント減少し、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。